

# 実力

# 向上

# 講座

# (硬筆)

## 【第二十二回】「硬筆書写の基礎・基本とその応用」

— 漢字行書の特徴と運筆 —

文教大学文学部講師  
本誌編集委員

米本 美雪

### ◇はじめに

今回は、本誌令和四年七月号で解説した「許容字体」を基に、漢字行書の特徴、および運筆法について解説します。行書は、楷書の明確性と草書の速書性を併せ持つ便利な書体です。複雑多様化する現代社会において、読みやすく、速書きに適する行書の書き方を修得することは、必要不可欠のことと言えます。

### ■行書の特徴

行書は、楷書と比べ次の特徴があります。

#### 一、点画の丸み

楷書の点画は直線的で角張っているが、行書は速く運筆する中で丸みを帯びることがある。

行書	楷書

#### 二、点画の連続

楷書の点画は一点一画を離して書くが、行書は速く運筆する中で連続することがあり、次の

#### 二通りの連続法がある。

#### ①筆脈の実線化による連続

離れた位置にある点画の筆脈を実線化して連続する方法（…部）

楷書		行書
	標準字体	
	許容字体	

注1

--	--	--	--

注1について

「三・川・彡」のように、同一方向の点画が三連続する場合は、速度が増すため、第二筆と第三筆を連続させる。

#### 部首例（…部）

りっしんべん	ぎょうにんべん	こころ	くび

②直接連続

前画の終筆部と次画の始筆部を、折り返して連続させる方法(…部)

楷書	行書
伝	伝
△文字例	
伝	

部首例(…部)

うかんむり	ゆうべ・た	うしへん	とめへん
いし	たつ	ぶたいのこ	むぎ
石*	立*	永*	麦
			止*

※折り返しをしないで運筆する場合もある。

三、点画の形や方向の変化

楷書の止め・はね・払いなどは、行書の速い運筆の中で点画の形や方向が変化することがある。

①右払いの形の変化

楷書	行書
標準字体	①
大	大
	②
	大

- ①右払いを払わず、軽く抜くように運筆する。
- ②右払いが点になる。

※右払いが変化するその他の文字例

冬	冬
果	果
果	果

②左払いの形の変化

- ①払いははねになる(前出①「大・冬・果」の・部。払いで書く場合もある)。

許容字体	行書
①	②
周	四
六	六
水	水
楷書	行書

左払いが丸みを帯びた縦線になる(「月・用」など)。  
 左払いが点になる(前出三「果」や「父」の第一画など)。  
 左払いや曲がり、丸みを帯びた縦線になる(「西・西」など)。  
 左払いが右上払いになる(「水・泉」など)。

③縦画の形の変化

縦画の「はね」を「払い」で書く場合がある(部首がりつとうの漢字(「前・列」)や、部首がはねぼうの漢字(「事・予」)や、「何」など)。

楷書	行書
川	川

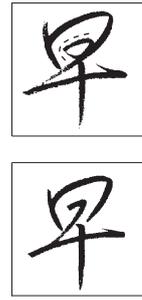
なお、許容字体において解説した、点画の形や方向・長さが変化する文字については、行書特有の特徴としては取り上げませんが、許容字体と行書の関連性を確認するため、数例を次に示します(「・部」に留意のこと)。

標準字体	許容字体	行書
小	小	小
羽	羽	羽
窓	窓	窓
風	風	風
非	非	非
無	無	無
盛	盛	盛

左払い↓点  
 右上払い↓点  
 左払い↓点  
 立ち点↓斜め点  
 曲がり↓点  
 左払い↓横画  
 左払い↓縦画  
 点画の長さ(横画)点の方向  
 点画の長さ(反り)はね↓払い

四、点画の省略

楷書は点画の省略がないが、行書は速く連続する中で、小さい点画を連続することにより、省略して書くことがある。



△文字例

第二筆と第三筆が連続することにより、第四筆が省略され、第五筆まで連続するように運筆する。

点画を省略する部首例

※	いと	れんが	きへん
系	△文字例	そうによう	ごんべん
※	くるまへん	いとへん	あめかんむり
車	△文字例	△文字例	もんがまえ

「早」の省略の書き方を含め、※の、部首を省

略する書き方（・部）に留意してください。

五、筆順の変化

点画の連続や省略に伴い、楷書の標準とされる筆順と異なる筆順で書くことがある。

筆順が変化する部首例

くさかんむり	こもすへん	うまへん	ふるとり
取	※	馬	隹

※「しめすへん」と「ころもへん」は同形になる。

筆順が変化する文字例

成	恵	書	葉
富			

以上、行書の特徴について解説しましたが、行書の書き方は一定ではなく、楷書の許容字体に近い書き方から、草書に近い書き方まで幅があります。ご自身の書写力に応じて、書き方を選定してください。さまざまな書き方の文字例を下に示します。

漢字行書のさまざまな文字例

	あめかんむり	ごんべん	いとへん					
	雨	言	系					
	雨	言	系					
	雨	言	系					
	雨	言	系					

※は「点」を省略した書き方

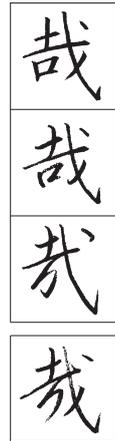
特に留意が必要な書き方の文字例

△文字例



常用漢字外

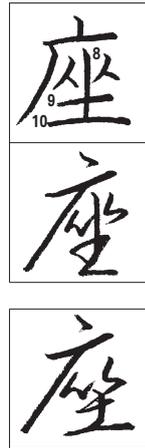
△文字例



古典の例



△文字例(筆順の誤り)



次に、行書の運筆法について解説します。前述の行書の特徴である点画の丸みの運筆法は、

本誌令和四年十月号で解説済みの平仮名の運筆法と酷似しています。基本点画の運筆法や、これらを構成に含む漢字の運筆法を解説します。

### ■行書の運筆法

#### 一、横画(「一」)の運筆

平仮名「つ」の始筆と同様、動かしながらく入筆し、中太りに運筆して、終筆はやや細くして払う。



#### 二、縦画の運筆

始筆は軽く入筆した後には太く運筆し、中程を過ぎた辺りから徐々に細くして払う。

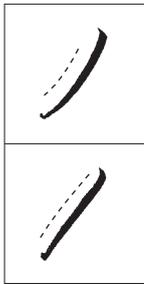


横画と縦画で構成される文字例



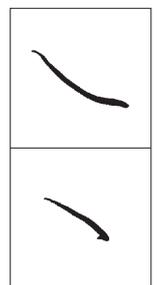
#### 三、左払いの運筆

送筆(…部)の運筆は異なるが、いずれも終筆は軽くはねるように運筆する(十五頁「三、点画の形や方向の変化」②①参照)。



#### 四、右払いの運筆

十五頁「三、点画の形や方向の変化」①を参照。



#### 左右の払いで構成される部首の運筆

漢字の上部に左右の払いがあり、「・部」のように左右の払いを連続して書く場合の長い点の方向は、右上方に運筆することにより速く書くことができる。



#### 左右の払いを構成に含む漢字の運筆

「又」の第一筆は平仮名「つ」の運筆と同様に、始筆は動かしながらく細く入筆し、太くした後右旋回部は細くして、中太りに運筆後、次の線に向かい細く運筆する。

第二筆は第一筆をうけて中太りに運筆し、終筆は軽く抜く。



同様の運筆法の文字例



五、折れの運筆（縦画と折れの運筆）

①内側に寄せる折れの運筆

「口」の第一筆は、平仮名「い」の第一筆と同様に、中太りに運筆する。第二筆の折れは、曲線になりすぎないように書き、終筆は細くせず第三筆まで連続して運筆する。



△文字例

②垂直に下ろす折れの運筆

「日」の第一筆は、平仮名「に」の第一筆と同様に、中太りに運筆する。第二筆（↓部）はやや曲線的に運筆する。※の文字のように第一筆と第二筆を連続して運筆する場合は、平仮名「う」第二筆と同様に右旋回部分を細く運筆する。



同様の運筆法の文字例

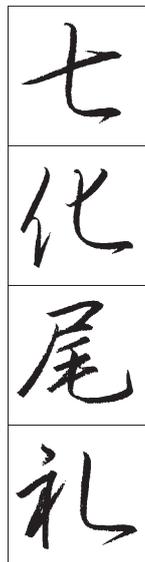


六、曲がりの運筆

入筆する方向は異なるが、平仮名「せ」の運筆と同様に、始筆は動かしながら入筆し、その後すぐに太く運筆する。曲がる部分を細く運筆した後徐々に太くし、終筆は左斜め下方に払う（止めや、上方向へはねる場合もある）。



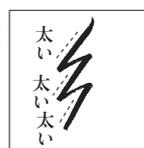
曲がりを構成に含む文字例



七、点画の連続の運筆

筆脈の実線化による連続、直接連続のいずれも、斜線を太く運筆することで、速く書くことが可能となり、運筆の柔らかさが表現できる。

運筆例



文字例



△運筆例



△文字例

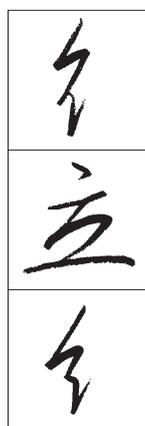
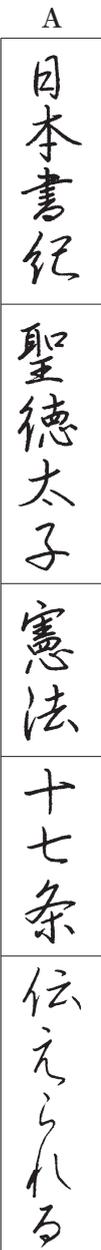


図1 令和四年八月号高・大・一般の硬筆規定課題出品作品（抜粋）



以上、行書の運筆法について概略を解説しました。最後に、参考例として本誌令和四年八月号の高・大・一般の硬筆規定課題の出品作品(同一級)から抜粋し、十八頁の図1に示します。

Aの作品は昇級した作品で、Bの作品は惜しくも昇級できなかった作品です。

B作品の「日・書・聖の口・憲のうかんむり・法・七・条」などの運筆には若干硬さが感じられます。さらに、「られ」の連綿や、「る」の大きさに難があります。競書課題に取り組まれる皆さんは、課題解説や、令和四年九月号の「平仮名の字形の整え方①概形」、前月号の連綿法などを再度確認して、次回の提出作品に生かしていただくよう期待します。最後に今回のまとめとして、「書いてみよう」に取り組んでみましょう。

今回は漢字草書の書き方について解説します。

内	冬	取	系	早	比	り	い
礼	友	進	書	門	水	石	衣

※行書の特徴や運筆に留意して書いてみよう  
なぞり書き まとめ書き なぞり書き まとめ書き

## 日本武道館発行・既刊本のご案内

段位認定試験を生かして学ぶ  
**実力向上講座**

静岡大学教育学部教授 杉崎哲子 著

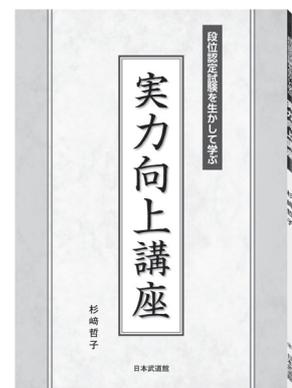
お問い合わせ・ご注文は、日本武道館  
書道展事務局までどうぞ!

月刊『書写書道』購読者は特別価格、税込1000円(送料別)で  
ご購入いただけます。

月刊『書写書道』で好評を得た連載を単行本化。段位認定試験受験者や指導者はもちろん、書に励む方々必読の書。

### 内容

- ・毛筆学習の基礎・基本とその書き方
- ・学びの指標(段位認定試験の課題に学ぶ)
- ・毛筆学習の発展(段位認定試験を生かす)
- ・硬筆学習の基礎と発展



A4判・並製・104頁・  
1100円(税込)送料別

編集・発行 日本武道館 TEL03(3216)5144 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3  
FAX03(3216)5156 ホームページ<https://www.nipponbudokan.or.jp>